

ロースバーク
日本人
收容所
知事局
五月一日
土曜発行
オニ二二号

山炭坑夫罷業の場合
軍隊の炭坑接收期待

軍府昨日P. P. 登ルイスの組合員四十五
の炭坑夫が徳四能業の場合、口大統領
之に對する處置として、政府は、国内有
煙炭坑全部を接收し、之が作業を
了る事となるは殆ど確實である、責任
ある政府筋は、今夜豫期されるストライ
キ数時間前に發表した。
軍隊は、炭坑が愈々政府の手に移る尚
炭坑の便の財産を保護するから、此間
何等異動と成る虞れ無き場合、軍隊
は直ちに引揚げるであらう。
ルイスとの組合員山炭坑夫は、大統領の
最後通牒に對し、協するの意志無し
と見られ、無き情勢であらう。
即ち大統領の最後通牒は、明日の正午
前十時迄に全炭坑夫は復業しなけれ
ばならぬ事と成つてゐる。然し、これが大
統領として、又、陸海軍總司令官として
の権限と行使するに、エラシクあらう。
紐育の南かたに山炭坑主と坑夫組合

この會議に於て、契約の改正、又は繼續は其
に失敗に終つた。而してペンシルバニア州に於
ける、ハードコール坑夫八万人は、ソフトコ
クウオークアクトに合流するに豫期されて
居る。
一方、ルイスは、今日大統領の
最後通牒に對し、未確定の返答を
戰時労働仲裁局は、労働三黨議を
する適當なる政府代表を無から山炭坑
夫の労働契約に關し、再び紐育にて
會議を開く事を提唱した。
今日、陸軍は山炭坑に向ふ軍隊の用意
完了、その出動の死線は大統領の最後
通牒に對し、期限の時満である。

華府世日國際電

國務省は、本日、佛領西
印度マリーチニク島總督、ゲヨレロハート
將軍に對し、佛領西印度諸島對合衆
國との條約を廢棄するに白を聲明した。
ハル國務長官の、説明に據れば、カルビアン
海に對する西印度島は、我海軍の發言を
する所は、樞軸側が利用し、是場を
んとする危険ある故、佛本國との關係
を断絶せしむべく、マリーチニク島ハート
テ、フランス駐在米國領事、エマ、マリーチ
ニクとして、屢々交渉を行はしめたるが、總督
ゲヨレロハートは、我方の提案を認め
容せざるため、四月廿六日、マリーチ領事は
之が最後の通牒を行つたを、あつた。
此問題に對し、ノックス海軍長官は、語
るに、今後同島に對し、我海軍は益々
警戒を嚴重に行ふが、同島へ我方より

マンザナの父兄、教師會に出席せん
フレスノ(廿七日A.P.電)加州マンザセン
ターの日本人父兄七名と、同所内に在る
公立學校教師は、今回、毎月開催さ
る、加州父兄教師會代表會へ出席した
三月を申込んで来た。
此の申込を、受諾するや否やに就いて
四月八日開催する、合、理事會に諮る
筈である、加州父兄教師會々長、
テイ、ハル夫人は述べた。此事に對し、
少意見をも異にする人があつたに、我
政府は、全米父兄教師會へ日本人が協
力協同せんことを希望してゐる精神を
見せ、寧ろ喜んで受諾すると思
ひ、然し、多數の中、日本人を出席
させるべきや否やは、投票に依り決すべ
きと主張する人もあつたが、我父兄教
師會は、もと寛大の精神をもち、た
上陸するや否やは不明である。
因に佛領西印度マリーチニク島其他は
カリビアン海聯合側諸島に括された小
諸島である。

日本の驚嘆する文化の美を、是を具
する日系市民が、米國に存在すること
を歓迎する。同時に、二世少教の
不審と、不評判のため、多教を
が批難されるを遺憾とするとは、日
本及日本人を知る、前駐日大使ガルウ
により、始めの言ひ得る言葉だ

日本が驚嘆する文化の美を、是を具
する日系市民が、米國に存在すること
を歓迎する。同時に、二世少教の
不審と、不評判のため、多教を
が批難されるを遺憾とするとは、日
本及日本人を知る、前駐日大使ガルウ
により、始めの言ひ得る言葉だ

才三隊 文化講座 五月廿週 十中隊食堂 午前八時半 午後七時	和歌解題 矢野、天洋氏	常瀨園藝講話 石山、實三氏	十三中隊食堂
芥根、清瀨、義三 三明文士	戦争と趨歸 松本、松氏	川柳に就き 井武、喜吉氏	地政学才一講 毛利、医学博士
漢詩に就き 岸山、弓時氏	英語夜學校 渡辺先生組 火木土七時半、十一中隊食堂 中林先生組 (B級) 火木土七時半、十一中隊食堂 (A級) 火木土七時半、十一中隊食堂	講演 浦中和三郎氏 日月水金七時、十二社交 社交の講習 春原、修氏 火木土七時、夕飯	
佛敎禮拜 明日 曜夕七時半 才十中隊食堂	勤行十二祀 田名、大正師 説敎 澤庵、禪全寺 上島、恭岳師	基督教禮拜 明日 曜午前九時 才十中隊社交室	神野、牧師 説敎 聖淨、即歡喜 田本、牧師
入院 小島、和夫氏 (才六中隊五幕)			



アリユーシャン群島の危機と悲劇

西月十六日附、上院軍事委員長、チャンドラー氏自署の議事録を送られた事、私は感謝する。

委員会は於て、日本に対する戦場の兵力、武器、軍需品の供給増強に就いて目撃者の奮闘の跡が歴然と映つて居る。各議員の矢の如き質問、就中、ブリヂス議員の卓越せる質疑に至つては、宛然法廷の訊問に似たる詳細を盡した物であった。

此、民主共和両党議員の質問に應答する、チャンドラー委員長の態度は、傍で見ると、劇的情景で、應酬の華々しき健闘振り、それは如何にも愉快さうに見えたが、国家の安危に關し、深い杞憂を抱く彼は決してそうでは無かつた。特に、千議員の演説中、吾人に強く感銘を与へたのは、四月廿八日、上院軍事委員長が、チャンドラーを

委員長として一行を、西部加奈院、アラスカ本エ及びアリユーシャン群島一圓に涉る、我が軍事基地防備の現状視察に關する事であった。一行が軍事的施設調査を終つて歸華しての報告中、日本軍が、キスカ、アット、諸島に既に築造しつ、ある堅固鉄壁の要塞と、堂々たる飛行場は、艦、アラスカ本エ及び我が太平洋沿岸に向つて爆龍を遣散せんとする、前驅であり、且、我、船舶の運輸を牽制壓迫する物である旨を大統領初め、軍部主腦者に、昨年九月、具々に報告した。況んや、日本軍の築造の迅速さと、日本製の機、優秀さに就いて詳細に説明し、我、米、国より、日本を敵手とせん、即、アリユーシャンより、レベリア、經由を逆ら日本より、米、国攻取の体勢を先取せられた事實、此際一刻も速かに、我、兵、力、武、器、飛、機、其他の輸送方を力説したる、然るに、何でや、既に八ヶ月後の今日に至るも、尚、日本軍をキスカ、アットより、敵手退し得ぬ、益々その危險と、我、手、上、に、迫、り、現、状、は、何、事、乎、云々と、(ヘラルド紙、エ、テ、ロ、レ、ス、論、評)

セロム收容所より二信

日曜日、河畔を散歩すると、手綱を提がた多くの婦人方を見ます。之は、收容所の北郊にある、テ、ン、キ、エ、小、魚

を捕獲して、佃煮を作る事が流行して居るからと。流れに手綱を入れて、小魚を捕獲するのすから、其水が目高であらうと、マリリアの幼虫を食ふアミノ魚であらうと、一向頓着せず、食膳を賑はするを、聊か憂慮せられず。アミノ魚は、絶対に飼育繁殖させれば、リ、ケ、ル、サ、リ、と、い、い、無、邪、氣、に、朝、か、に、此、小、魚、捕、獲、に、執、中、す、る、賢、妻、方、の、唯、一、の、娛、一、の、佃、煮、作、り、を、無、際、々、々、差、し、止、め、る、の、は、情、に、於、て、誠、に、シ、ン、ビ、な、い、し、と、言、つ、て、蚊、の、発、生、期、節、が、目、睫、の、間、に、迫、つ、て、居、り、ま、す、此、處、に、は、浮、世、の、ゲ、レ、ン、マ、が、私、共、を、憫、ま、す、次、才、で、す。

ジェファース(婦人)が抗議

ゴムのテープが無くなる、米国の女はどうしてパンツをはきますか、フロリダ州オーランド市の婦人は、ラバーの總元締、ジェファースに對し、若し、ゴムのテープを手に入れ、事が出来無くなる、米国の女は大変です、と左の如き手紙を送つた。

ゴムのテープが無くて、米国の女達がどうしてパンツをはく事が出来るか、どうか、教へて頂戴、私、が、申、す、パ、ン、ツ、と、い、ふ、の、は、男、の、真、似、を、し、て、婦、人、の、間、に、流、行、し、て、あ、る、ス、ラ、ッ、ク、ス、亦、人、か、の、事、で、は、あ、り、ま、せ、ん、。女、に、と、つ、て、は、と、い、ふ、く、大、切、な、事、で、あ、る、例、へ、は、パ、ン、ツ、ス、ブ、リ、ー、フ、ス、ス、テ、ッ、フ、イ、ン、ス、ブ、ル、

- マース、ヤ、ス、ワ、ッ、ギ、ー、ス、な、ど、で、す、。現在、當市の商店には、一、つ、の、ゴ、ム、テ、ッ、プ、も、あ、り、ま、せ、ん、。ジェファース様、此際、特、に、申、し、上、げ、ま、す、が、ゴ、ム、テ、ッ、プ、に、は、前、記、様、の、女、の、下、着、に、は、無、く、て、あ、る、な、い、物、も、あ、り、ま、す、。米、国、婦、人、の、為、に、充、分、の、併、配、を、偏、に、お、願、ひ、申、し、上、げ、ま、す、。婦、人、の、立、場、か、ら、真、剣、に、而、も、大、膽、に、何、も、か、ら、お、ま、り、ま、す、。その、お、願、ひ、を、許、さ、れ、た、。ジェファースは早速此婦人に返答した。然し、其、内、容、の、程、は、表、表、せ、れ、な、い、が、此、頃、不、機、嫌、の、ジェファースは、此、婦、人、の、要、求、に、は、伸、縮、自、在、の、エ、ラ、ス、テ、ッ、ク、テ、ッ、フ、同、様、婦、人、の、安、心、す、る、や、う、な、返、事、を、あ、ら、う、と、
- オニ大隊便り
- ◎佛教講演會
大藏經由來 續講 三朋永無先生
今土曜晚、七時半
オニ大隊、宗教堂
講演部並 主催
佛教聯盟
- ◎曹洞宗禪學會
修證義講義我 田中哲翁師
明日曜、午前九時
オニ大隊、社交室
- ◎淨土宗聖典研究
明日曜、午前九時、オニ大隊、食堂
- ◎聯合日曜禮拜
説教 田中哲翁師
明日曜、午後七時、宗教堂